

注3

大学番号：私296

[平成31年度設置]

計画の区分：学部設置

注1

認可**沖縄大学 健康栄養学部 管理栄養学科**

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書学校法人沖縄大学
令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 総務課

職名・氏名 カチョウ タシロ マキ
課長・田代 真紀

電話番号 098-832-6732

（夜間） 098-832-6732

F A X 098-832-0083

e-mail general@okinawa-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について
(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

健康栄養学部

＜管理栄養学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	15
6. 附帯事項等に対する履行状況等	27
7. その他全般的事項	45

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人沖縄大学

(2) 大 学 名 沖縄大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒902-8521
沖縄県那覇市字国場555番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(ナガハマ マサヒロ) 長濱 正弘 (平成23年10月)		
学 長	(モリグチ ミツル) 盛口 満 (平成31年4月)		
学 部 長	(ヤマシロ ヒロシ) 山代 寛 (平成31年4月)		
学科長等	(クニナカ サオリ) 國仲 小織 (平成31年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
健康栄養学部 管理栄養学科 学士(栄養学)	家政関係	年 4	人 80	年次 0	人 320	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員 超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 80 (-) [-]	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	1.01倍	-	
志願者数	266 (-) [-]	- (-) [-]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []			
受験者数	266 (-) [-]	- (-) [-]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []			
合格者数	98 (-) [-]	- (-) [-]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []			
B 入学者数	81 (-) [-]	- (-) [-]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []			
入学定員超過率 B/A	1.01倍										

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を超えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を超えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	対象年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	81	-								
	[-]	[-]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	
	(-)	(-)	()	()	()	()	()	()	()	
2 年次										
			[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	
			()	()	()	()	()	()	()	
3 年次										
					[]	[]	[]	[]	[]	
					()	()	()	()	()	
4 年次										
							[]	[]	[]	
							()	()	()	
計	81									
	[-]		[]		[]		[]		[]	
	(-)		()		()		()		()	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
令和元年度	81 人	0 人	令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
合 計	81	0 人		人	人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)

・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。

・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。

・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。

(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学

・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{81} = 0 \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \#DIV/0! \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \#DIV/0! \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \#DIV/0! \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \#DIV/0! \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

＜健康栄養学部 管理栄養学科＞

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
共 通 科 目	沖縄の言語	1・2・3・4		2							1
	沖縄の文化Ⅰ	1・2前		2							1
	沖縄の文化Ⅱ	1・2後		2							1
	沖縄の地理	1・2前		2							1
	近代沖縄文学	1・2前		2							1
	現代沖縄文学	1・2後		2							1
	現代沖縄学入門	1・2後		2							1
	小計(沖縄関係7科目)	－									
	沖縄大学論	1・2前		2		1					1
	ユニバーサル社会入門	1・2前		2							1
	福祉コミュニティ入門	1・2前		2							1
	ジャーナリズム論	1・2前		2							1
	小計(総合4科目)	－									
	心理学入門	1・2後		2							1
	青年期のこころの発達	1・2 前後		2							1
	文化人類学入門	1・2 前後		2							2
	政治学入門	1・2後		2							1
	法学入門	1・2後		2							1
	日本国憲法	1・2 前後		2							1
	小計(人間社会6科目)	－									
	環境と社会	1・2前		2							1
	地域環境計画	1・2前		2							1
	統計学	1・2前		2							1
	統計解析入門	1・2後		2							1
	小計(自然環境4科目)	－									
	健康運動演習a	1・2前		2							3
	健康運動演習b	1・2前		2							3
	小計(健康関連2科目)	－									
	日本語のシステムⅠ	1前・後		2							1
	日本語のシステムⅡ	1後		2							1
	Oral EnglishⅠ	1前	2								6
	Oral EnglishⅡ	1後	2								6
	Basic EnglishⅠ	1前	2								9
	Basic EnglishⅡ	1後	2								9
	日本語ⅠA	1前		2							1
	日本語ⅡA	1後		2							1
	日本語ⅠB	1前		2							1

【令和元年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
共 通 科 目	沖縄の言語	1・2・3・4		2								1
	沖縄の文化Ⅰ	1・2前		2								1
	沖縄の文化Ⅱ	1・2後		2								1
	沖縄の地理	1・2前		2								1
	近代沖縄文学	1・2前		2								1
	現代沖縄文学	1・2後		2								1
	現代沖縄学入門	1・2後		2								1
	小計(沖縄関係7科目)	－										
	沖縄大学論	1・2後		2								1
	ユニバーサル社会入門 (未開講)	1・2前		2								1
	福祉コミュニティ入門	1・2前		2								1
	ジャーナリズム論	1・2前		2								1
	小計(総合4科目)	－										
	心理学入門	1・2後		2								1
	青年期のこころの発達	1・2 前後		2								1
	文化人類学入門	1・2 前後		2								1
	政治学入門	1・2後		2								1
	法学入門	1・2前		2								1
	日本国憲法	1・2 前後		2								1
	小計(人間社会6科目)	－										
	環境と社会	1・2後		2								1
	地域環境計画 (未開講)	1・2前		2								1
	統計学	1・2前		2								1
	統計解析入門	1・2後		2								1
	小計(自然環境4科目)	－										
	健康運動演習a	1・2 前後		2								3
	健康運動演習b	1・2 前後		2								4
	小計(健康関連2科目)	－										
	日本語のシステムⅠ	1前・後		2								1
	日本語のシステムⅡ	1後		2								1
	Oral EnglishⅠ	1前	2									10
	Oral EnglishⅡ	1後	2									10
	Basic EnglishⅠ	1前	2									13
	Basic EnglishⅡ	1後	2									13
	日本語ⅠA	1前		2								1
	日本語ⅡA	1後		2								1
	日本語ⅠB	1前		2								1

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
共 通 科 目	日本語ⅡB	1後		2							1
	小計（言語関連10科目）	—									
	情報リテラシーⅠ	1前	2								6
	情報リテラシーⅡ	1・2後		2							5
	プレゼンテーション演習	1・2前		2							1
	情報倫理	1・2後		2							1
	小計（情報処理関連4科目）	—									
	キャリアデザイン入門	1前・後		2							1
	キャリア開発論	2後		2							1
	キャリア選択論	3前		2							1
	小計（キャリア形成資格対策3科目）	—									
	問題発見演習Ⅰ	1前	2			4	4	2			
	問題発見演習Ⅱ	1後	2			4	4	2			
	小計（問題発見演習2科目）	—									
専 門 科 目	基礎演習Ⅰ	2前	2			4	4	2			
	基礎演習Ⅱ	2後	2			4	4	2			
	専門演習a	3前	2			4	4	2			
	専門演習b	3後	2			4	4	2			
	小計（専攻専門演習科目4科目）	—									
	生命倫理	2前	2			2	1				
	沖縄の食文化論	2後	2			1	2				
	沖縄の食の機能性研究論	3前	2			2	2				
	小計（基幹科目3科目）	—									
	健康管理学概論	1前	2			1					
	健康管理学実習	1後	1			1					
	公衆衛生学Ⅰ	1前	2			1					
	公衆衛生学Ⅱ	2前	2			1					
	公衆衛生学実験	2前	1			1					
	小計（社会・環境と健康5科目）	—									
	生化学Ⅰ	1後	2			1					
	生化学Ⅱ	2前	2				1				
	生化学実験	2前	1				1			1	
	解剖生理学Ⅰ	1前	2			1					
	解剖生理学Ⅱ	1後	2			1					
	解剖生理学実験	1後	1			1				1	
	臨床病態学Ⅰ	2前	2			1					
	臨床病態学Ⅱ	2後	2			1					
	臨床病態学実習	2後	1			1				1	
	臨床検査学概論	2後	2				1				
	小計（人体の構造と機能及び 疾病の成り立ち10科目）	—									

【令和元年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
共 通 科 目	日本語ⅡB	1後		2								1
	小計（言語関連10科目）	—										
	情報リテラシーⅠ	1前・後	2									7
	情報リテラシーⅡ	1・2前後		2								6
	プレゼンテーション演習	1・2前		2								1
	情報倫理	1・2後		2								1
	小計（情報処理関連4科目）	—										
	キャリアデザイン入門	1前・後		2								1
	キャリア開発論	2後		2								1
	キャリア選択論	3前		2								1
	小計（キャリア形成資格対策3科目）	—										
	問題発見演習Ⅰ	1前	2			4	4	2				
	問題発見演習Ⅱ	1後	2			4	4	2				
	小計（問題発見演習2科目）	—										
専 門 科 目	基礎演習Ⅰ	2前	2			4	4	2				
	基礎演習Ⅱ	2後	2			4	4	2				
	専門演習a	3前	2			4	4	2				
	専門演習b	3後	2			4	4	2				
	小計（専攻専門演習科目4科目）	—										
	生命倫理	2前	2			2	1					
	沖縄の食文化論	2後	2			1	2					
	沖縄の食の機能性研究論	3前	2			2	2					
	小計（基幹科目3科目）	—										
	健康管理学概論	1前	2			1						
	健康管理学実習	1後	1			1					1	
	公衆衛生学Ⅰ	1前	2			1						
	公衆衛生学Ⅱ	2前	2			1						
	公衆衛生学実験	2前	1			1					1	
	小計（社会・環境と健康5科目）	—										
	生化学Ⅰ	1後	2			1						
	生化学Ⅱ	2前	2			1	1					
	生化学実験	2前	1				2				1	
	解剖生理学Ⅰ	1前	2			1						
	解剖生理学Ⅱ	1後	2			1						
	解剖生理学実験	1後	1			1					1	
	臨床病態学Ⅰ	2前	2			1						
	臨床病態学Ⅱ	2後	2			1						
臨床病態学実習	2後	1			1					1		
臨床検査学概論	2後	2				1						
小計（人体の構造と機能及び 疾病の成り立ち10科目）	—											

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	食品学総論	1前	2			1					
	食品学総論実験	1前	1			1			1	1	
	食品学各論	1後	2								
	食品学各論実験	1後	1			1			1	1	
	食品衛生学	2前	2				1				
	食品衛生学実験	2後	1				1		1	1	
	調理学	1後	2					1			
	調理学実習Ⅰ	1後	1				1			1	
	調理学実習Ⅱ	3前	1				2	1		1	
	小計(食べ物と健康9科目)	—									
	基礎栄養学	1前	2			1					
	基礎栄養学実験	2後	1				1			1	
	小計(基礎栄養学2科目)	—									
	応用栄養学Ⅰ	2後	2			1					
	応用栄養学実習Ⅰ	2後	1			1	1			1	
	応用栄養学Ⅱ	3前	2			1					
	応用栄養学実習Ⅱ	3前	1			1	1			1	
	健康スポーツ栄養論	3後	2								兼1
	小計(応用栄養学5科目)	—									
	栄養管理学概論	2前	2				1				
	栄養教育総論	2後	2				1				
	栄養教育総論実習	2後	1				1			1	
	栄養教育各論	3前	2				1				
	栄養教育各論実習	3前	1				1			1	
	小計(栄養教育論5科目)	—									
	臨床栄養学総論	3前	2					1			
	臨床栄養学各論Ⅰ	3前	2					1			兼1
	臨床栄養学実習Ⅰ	3前	1					1		1	
	臨床栄養学各論Ⅱ	3後	2					1			兼1
	臨床栄養学実習Ⅱ	3後	1					1		1	
	臨床栄養学各論Ⅲ	3後	2			1	3	1			
	小計(臨床栄養学6科目)	—									
	公衆栄養学Ⅰ	2後	2			1					
	公衆栄養学Ⅱ	3後	2			1					兼2
	公衆栄養学実習	3後	1			1				1	兼2
	小計(公衆栄養学3科目)	—									
	給食経営管理論Ⅰ	3前	2					1			
	給食経営管理実習Ⅰ	3前	1					1		1	
	給食経営管理論Ⅱ	3後	2				1				
	給食経営管理実習Ⅱ	3後	1				1			1	
	小計(給食経営管理論4科目)	—									

【令和元年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	食品学総論	1前	2			1					
	食品学総論実験	1前	1			1			1	1	
	食品学各論	1後	2			1					
	食品学各論実験	1後	1			1			1	1	
	食品衛生学	2前	2				1				1
	食品衛生学実験	2後	1				1		1	1	1
	調理学	1後	2					1			
	調理学実習Ⅰ	1後	1				1			1	
	調理学実習Ⅱ	3前	1				1	1		1	
	小計(食べ物と健康9科目)	—									
	基礎栄養学	1前	2			1					
	基礎栄養学実験	2後	1				1			1	
	小計(基礎栄養学2科目)	—									
	応用栄養学Ⅰ	2後	2			1					
	応用栄養学実習Ⅰ	2後	1			1	1			1	
	応用栄養学Ⅱ	3前	2			1					
	応用栄養学実習Ⅱ	3前	1			1	1			1	
	健康スポーツ栄養論	3後	2								兼1
	小計(応用栄養学5科目)	—									
	栄養教育各論Ⅰ	2前	2				1				
	栄養教育総論	2後	2			1					
	栄養教育総論実習	2後	1				1			1	
	栄養教育各論Ⅱ	3前	2				1				
	栄養教育各論実習	3前	1				1			1	
	小計(栄養教育論5科目)	—									
	臨床栄養学総論	3前	2					1			
	臨床栄養学各論Ⅰ	3前	2					1			兼1
	臨床栄養学実習Ⅰ	3前	1					1		1	
	臨床栄養学各論Ⅱ	3後	2					1			兼1
	臨床栄養学実習Ⅱ	3後	1					1		1	
	臨床栄養学各論Ⅲ	3後	2			1	2	1			
	小計(臨床栄養学6科目)	—									
	公衆栄養学Ⅰ	2後	2			1					
	公衆栄養学Ⅱ	3後	2			1					兼2
	公衆栄養学実習	3後	1			1				1	兼2
	小計(公衆栄養学3科目)	—									
	給食経営管理論Ⅰ	3前	2					1			
	給食経営管理実習Ⅰ	3前	1					1		1	
	給食経営管理論Ⅱ	3後	2				1				
	給食経営管理実習Ⅱ	3後	1				1			1	
	小計(給食経営管理論4科目)	—									

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	栄養総合演習Ⅰ	4前	1			5	4	2	1		
	栄養総合演習Ⅱ	4後	1			5	4	2	1		
	小計(2科目)	—									
	臨地実習Ⅰ・学校給食の管理運営	4前		1				1			
	臨地実習Ⅱ・病院給食の管理運営	4前		1			1				
	臨地実習Ⅲ・公衆栄養実習	4前			1	1					
	臨地実習Ⅱa・臨床栄養臨地実習Ⅱa	4前		3			1				
	臨地実習Ⅱb・臨床栄養臨地実習Ⅱb	4前		3			1				
	臨地実習Ⅲa・公衆栄養臨地実習Ⅲa	4前		3		1					
	臨地実習Ⅲb・公衆栄養臨地実習Ⅲb	4前		3		1					
	小計(臨地実習7科目)	—									
	卒業研究Ⅰ	4前	2			5	3	2			
	卒業研究Ⅱ	4後	2			5	3	2			
	小計(卒業研究2科目)	—									
合計(128科目)		—									
卒業要件及び履修方法											
必修科目112単位、共通科目の選択科目から8単位(健康関連から2単位及び沖縄関連から4単位を含む)、臨地実習の選択科目から4単位(臨地実習Ⅰ(1単位)又は臨地実習Ⅱ(1単位)を含む)の計124単位以上を修得すること。 履修科目の登録の上限は40単位とする。ただし、前年度GPAが2.5以上の場合は48単位とする。											

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	栄養総合演習Ⅰ	4前	1			5	4	2	1		
	栄養総合演習Ⅱ	4後	1			5	4	2	1		
	小計(2科目)	—									
	臨地実習Ⅰ・学校給食の管理運営	4前		1				1			
	臨地実習Ⅱ・病院給食の管理運営	4前		1			1				
	臨地実習Ⅲ・公衆栄養実習	4前			1	1					
	臨地実習Ⅱa・臨床栄養臨地実習Ⅱa	4前		3			1				
	臨地実習Ⅱb・臨床栄養臨地実習Ⅱb	4前		3			1				
	臨地実習Ⅲa・公衆栄養臨地実習Ⅲa	4前		3		1					
	臨地実習Ⅲb・公衆栄養臨地実習Ⅲb	4前		3		1					
	小計(臨地実習7科目)	—									
	卒業研究Ⅰ	4前	2			5	3	2			
	卒業研究Ⅱ	4後	2			5	3	2			
	小計(卒業研究2科目)	—									
合計(128科目)		—									
卒業要件及び履修方法											
必修科目112単位、共通科目の選択科目から8単位(健康関連から2単位及び沖縄関連から4単位を含む)、臨地実習の選択科目から4単位(臨地実習Ⅰ(1単位)又は臨地実習Ⅱ(1単位)を含む)の計124単位以上を修得すること。 履修科目の登録の上限は40単位とする。ただし、前年度GPAが2.5以上の場合は48単位とする。											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・ 担当者変更に伴い、「沖縄大学論」の開講期別を「前期」から「後期」に変更。
- ・ 担当者の担当科目調整に伴い、「文化人類学入門」の担当者1名を減じた。
- ・ 担当者の他の開講科目との調整に伴い、「法学入門」の開講期別を「後期」から「前期」に変更。
- ・ 担当者の他の開講科目との調整に伴い、「環境と社会」の開講期別を「前期」から「後期」に変更。
- ・ 担当者変更に伴い、教育公開時の為に「健康運動演習a」の開講期別に「後期」を追加。
- ・ 教育効果維持の為に「健康運動演習b」の担当者を1名増とし開講期別に「後期」を追加。
- ・ 教育効果維持の為に「Oral English I・II」及び「Basic English I・II」の担当者を追加。
- ・ 教育効果維持の為に「情報リテラシー I」及び「情報リテラシー II」の担当者を追加。
- ・ 「健康管理学実習及び「公衆衛生学実験」に助手を配置。
- ・ 「生化学Ⅱ」は厚生局の指摘を受け、教授職との合同に変更(AC教員審査済)。
- ・ 「生化学実験」は厚生局の指摘を受け、他の准教授との合同に変更(AC教員審査済)。
- ・ 「食品学各論」は認可時に教員審査を通らなかった為、教授を配置(AC教員審査済)。
- ・ 「食品衛生学」は厚生局からの指摘を受け、兼任講師1名を追加。
- ・ 「食品衛生学実験」は厚生局からの指摘を受け、兼任講師1名を追加。
- ・ 「調理学実習Ⅱ」は厚生局の指摘を受け、准教授1名を外す(減じた講義内容変更でAC教員審査済)。
- ・ 「応用栄養学実習Ⅰ」は厚生局の指摘を受け、准教授1名を外す(減じた講義内容変更でAC教員審査済)。
- ・ 厚生局からの指導を受け「栄養管理学概論」を「栄養教育各論Ⅰ」に変更(AC教員審査を予定)
- ・ 「栄養教育総論」は厚生局からの指摘を受け、准教授から教授へ担当を変更(AC教員審査済)。
- ・ 厚生局からの指導を受け「栄養教育各論」を「栄養教育各論Ⅱ」に変更(AC教員審査を予定)
- ・ 「臨床栄養学各論Ⅲ」は厚生局の指摘を受け准教授1名を外す(減じた講義内容変更でAC教員審査済)。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
67 科目	41 科目	20 科目	128 科目	67 科目 [0]	41 科目 [0]	20 科目 [0]	128 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	ユニバーサル社会入門	2	1・2	共通科目	選択	担当者が役職に就いたことによる、持ちコマ数の削減
2	地域環境計画	2	1・2	共通科目	選択	隔年開講科目のため

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目 「該当なし」

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

・ 未開講となった科目は、学生全員に配布する履修ハンドブックに記載して周知。
 ・ 未開講科目のうち、「ユニバーサル社会入門」については、担当者との調整により、次年度以降の開講を検討することで、影響を最小限にする。
 ・ 未開講科目のうち、「地域環境計画」については、隔年開講科目であるため、次年度の履修が可能である。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{2}{128} = \boxed{1.56\%}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	
	校 舎 敷 地	14,864.01㎡	— ㎡	— ㎡	14,864.01㎡	
	運動場用地	13,669.00㎡	— ㎡	— ㎡	13,669.00㎡	
	小 計	28,533.01㎡	— ㎡	— ㎡	28,533.01㎡	
	そ の 他	61,454.87㎡	— ㎡	— ㎡	61,454.87㎡	
	合 計	89,987.88㎡	— ㎡	— ㎡	89,987.88㎡	
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	
		22,990.86㎡ (22,990.86㎡)	— ㎡ (— ㎡)	— ㎡ (— ㎡)	22,990.86㎡ (22,990.86㎡)	
(3) 教 室 等		講 義 室 37室 36室	演 習 室 19室 20室	実験実習室 20室	情報処理学習施設 8室 (補助職員 6人)	語学学習施設 — (補助職員 — 人)
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称 健康栄養学部 学科			室 数 10 12	※赴任時まで2室はゼミ 室として活用(元)
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点
	健康栄養学部	5,300 [160] 5,209 (5,221 [149])	25 [4] (22 [2]) (19 [1])	0 [0] (0 [0]) (0 [0])	25 (23) (17)	360 (360)
	計	5,300 [160] 5,209 (5,221 [149])	25 [4] (22 [2]) (19 [1])	0 [0] (0 [0]) (0 [0])	25 (23) (17)	360 (360)
(6) 図 書 館		面 積 2,042.46㎡	閱 覧 座 席 数 198 207	収 納 可 能 冊 数 196,000	大学全体 館内に書架を増設し、 閲覧席を69席撤去した (元)	
(7) 体 育 館		面 積 2,155.77㎡	体育館以外のスポーツ施設の概要 トレーニング室(アネックス共創館内)			—
(8) 経費の見 積り及び 維持方法 の 概 要	経費の見 積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度
		教員 1 人 当 研究費等	400千円	400千円	図書購入費	26,746 26,700 千円
		共 同 研 究 費 等	3,520千円	3,520千円	設備購入費	183,103 170,130 千円
	学生 1 人 当 り 納付金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次
		1,145千円	1,020千円	1,020千円	1,020千円	— 千円
	学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、寄付金収入、施設利用料収入等			

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」

を併せて提出してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。

- ・ 国立大学については「（８）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	沖 縄 大 学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
法経学部	年	人	年次	人		倍	年度	年度	年度	
法経学科	4	220	3年次 6	922	-	1.02	-	昭和49	同上	定員変更 (△10)
人文学部	4	220	3年次 6		学士 (法経)	1.02	令和元年	平成9	同上	
国際コミュニケーション学科	4	250	3年次 14	1,058	-	1.02	-	平成11	同上	
福祉文化学科	4	80	3年次 3	326	学士 (国際コミュニ ケーション)	1.11	-	平成11	同上	
社会福祉専攻	4	120		522	-	0.93	-	平成11	同上	定員変更 (△10)
健康スポーツ福祉専攻	4	75	3年次 6	342	学士 (社会福祉)	0.81	令和元年	平成11	同上	
子ども文化学科	4	45		180	学士 (健康スポーツ 福祉)	1.13	-	平成11	同上	
健康栄養学部	4	50	3年次 5	210	学士 (子ども文化)	1.12	-	平成19	同上	
管理栄養学科	4	80	-	80	学士 (栄養学)	1.01	-	令和元年	同上	
大学全体	4	80	-	80	学士 (栄養学)	1.01	-	令和元年	同上	
大学全体	4	550	20	2060	-	1.02	-	-	-	

大学 の 名 称	沖 縄 大 学 大 学 院									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
現代沖縄研究科	年	人	年次	人		倍				
地域経営専攻	2	10	-	20		0.65	-	平成17	沖縄県那覇市宇国場555	
沖縄・東アジア地域研究専攻	2	5	-	10	修士 (地 域経営)	0.9	-	平成17	同上	
大学院全体	2	5	-	10	修士 (地 域研究)	0.4	-	平成17	同上	
大学院全体	2	10	-	20	-	0.65	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (30年)	人材養成像が「南に開かれた世界の中にある沖縄という意識を持った指導的人材の育成」と改められ、対応する科目が「沖縄の食文化論」及び「沖縄の食の機能性研究論」と確認はされたが、授業科目の概要やシラバスにおいて、本科目がアジア地域との関係性を学ぶ内容であることを学生に解りやすく示す観点から、明確に記載しておくこと。	遵守事項 「沖縄の食文化論」のシラバスの講義概要で、本講義が「伝統的な食文化に愛着と誇りをもち、それが地域共創に結びつくこと」、さらに達成目標で「沖縄の食文化とアジア地域との関連性を理解できる」旨を追記した。また「沖縄の食の機能性研究論」のシラバスの講義概要で、本講義が「伝統的発酵食品や沖縄特有の食素材においてアジア地域との関連性を学ぶ科目である」こと、さらに達成目標で「沖縄の食の機能性研究とアジア地域との関連性を理解できる」旨を追記した。 令和元年10月17日付の追加書面調査の指摘を受け、達成目標に関連する授業内容について回答した。	履行済
認 可 時 (30年)	「問題発見演習Ⅰ・Ⅱ」及び「専門演習a・b」のシラバスについて、授業計画が「授業初回時に説明」となっており、各回の授業内容が記載されていないため、「基礎発見演習Ⅰ・Ⅱ」のシラバスと同様に各回の詳細な授業内容を学生に分かり易く明確に記載しておくこと。	遵守事項 「問題発見演習Ⅰ・Ⅱ」の各シラバスの授業計画に15回各回の授業内容を記載した。「専門演習a・b」はa、b各シラバスを作成し、各シラバスに15回の授業内容を記載した。しかし、令和元年10月17日付の追加書面調査にて「シラバスの記載を再検討する」旨の指摘を受けたことを踏まえ、現在は記載内容の再検討中である。	履行中 問題発見演習Ⅰ・Ⅱについては2020年度シラバスに反映させる。 専門演習a・bについては開設年度である2021年度シラバスに反映させる。
認 可 時 (30年)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について着実に実施すること。	遵守事項 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢(65歳)を超える専任教員数は5人(12人中)である(70歳までは特任採用で継続は可)。2022年度末で3人の教員、2024年度末で1人の教員が退職する。	履行中 2021年度前期には教員採用調整委員会を立ち上げ、将来を見据えた教員の採用計画を立てる。
認 可 時 (30年)	教員の補充を必要とされた1科目については、開設時までには確実に専任教員を配置して教員を充足すること。	遵守事項 教員の補充を必要とされた「食品学各論」については平成30年度第4回AC教員審査において担当教員を新城澄枝に変更の上で受審し「可」の判定を頂いた。	履行済

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を

全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。

その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。

- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

設置計画履行状況等の追加書面調査

大学番号	私296
大学名	沖縄大学

※黄色セルについて作成ください。

No.	学校名	認可・届出の別	研究科・専攻等名	開設年度	追加確認事項	追加確認事項に対する回答	履行状況報告書への反映有無
1	沖縄大学	認可	健康栄養学部 管理栄養学科	31	○認可時に付された「沖縄の食文化論」及び「沖縄の食の機能性研究論」のシラバスに係る遵守事項について、先の追加書面調査を通じて示されたシラバスを確認したところ、「アジア地域との関連性を理解する」という達成目標に關連する授業内容がシラバス上から確認できないように見受けられるが、当該達成目標に關連する授業計画の内容について具体的に説明すること。 ○認可時に付された「問題発見演習Ⅰ・Ⅱ」及び「専門演習a・b」のシラバスに係る遵守事項について、先の追加書面調査を通じて示されたシラバスを確認したところ、例えば、「問題発見演習Ⅱ」の3～6回の文献とはどのようなものか、「専門演習b」の10回と11回はいくつのように違つかなど、内容の具体性に欠けている箇所が見受けられる。このことを踏まえ、改めて当該科目のシラバスの記載を再検討するとともに、係る検討スケジュールを明示すること。	「沖縄の食文化論」の担当者である新垣慶子准教授は、琉球料理伝承人1期生(https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/bunka-sports/bunka/syokubunka.html)で、沖縄の食文化に精通しており、アジアとの関係については、第6回講義で沖縄の食文化の韓国、中国、東南アジアなどから受けた影響について講義予定である。また新垣教授による第11回、第12回講義において沖縄の食文化の思想背景(医食同源、以類補類)における中国の影響について学が予定である。 また「沖縄の食の機能性研究論」では安田正昭教授の担当部分で泡盛、豆腐などの沖縄伝来の歴史の中でアジアとの関係にふれる予定である。沖縄とアジア地域との関連性については、沖縄大学の共通科目である沖縄関連科目群から選択受講することによって学びを深めることができ、本学科では卒論で取り組み学生も想定している。 問題発見演習Ⅰ・Ⅱに関しては講義概要、授業計画と齟齬がないように担当者ミーティングや学科会議で確認しながら講義を進めている。 問題発見演習Ⅰについてはシラバスに沿って講義を進め、6月まで入学前課題に用いたe-learning教材オキタイドリルを使用し、受講者がすべて課題を達成するよう指導した。ゼミ発表(ライフデザインに関するテーマ)はルーブリックを用いて評価した。指摘のあった問題発見演習Ⅱの3～6回の文献をどのようなものにするかについては担当者会議で以下の通り確認している。 ①文献紹介では、学術雑誌(国際誌含む)を指定する。オープンアクセスジャーナルや本学図書館の学術雑誌など。学生は、興味関心の高い論文を探し紹介する。 ②文献購読では、各教員の専門分野や栄養学における最新のトピックス等について、担当教員が推薦する論文を用いることを担当者で協議し取り決めた。 ※上記①②に関して、問題発見演習の担当者会議議事録を添付。 シラバスにおいて表現の重複している部分、具体性に欠けると思われる部分等については担当教員間で早めに再調整し2020年度シラバスに反映させる。なお、完成年度以降は担当教員別にシラバスを作成する予定である。 専門演習bの10回と11回の違いについては、ゼミ生を2グループに分けてブレゼンテーションの演習をすることを想定したものである。今後、専門演習も問題発見演習と同様に担当者間で学生の学習状況をしながら講義概要授業計画に沿った講義ができるよう適宜具体的な内容を調整する予定。 専門演習のシラバスにおいても表現の重複している部分、具体性に欠けると思われる部分等については担当教員間で再調整し2021年度のシラバスに反映させる。なお、完成年度以降は担当教員別にシラバスを作成する予定である。	有

2019 年 10 月 18 日

2019 年度第 2 回 問題発見演習Ⅱ会議 議事録

記録：我那覇ゆりか

1. 日時 2019 年 10 月 18 日（金） 15：30~16：30
2. 場所 3 号館 601 号室
3. 参加者 山代、國仲、宮良、我那覇（敬称略）
4. 議題 文献紹介および文献購読において取り扱う文献の確認

5. 検討および決定事項

- ①文献紹介では、学術雑誌（国際誌含む）を指定する。オープンアクセスジャーナルや本学図書館の学術雑誌など。学生は、興味関心の高い論文を探し紹介する。
- ②文献購読では、各教員の専門分野や栄養学における最新のトピックス等について、担当教員が推薦する論文を用いる。
- ③次回の打合せ：レポート、発表、参加態度に関する評価について協議し、ループブックを作成する。

設置計画履行状況等の追加書面調査

大学番号	私296
大学名	沖縄大学

※黄色セルについて作成ください。

No.	学校名	認可・届出の別	研究科・専攻等名	開設年度	追加確認事項	追加確認事項に対する回答	履行状況報告書への反映有無
1	沖縄大学	認可	健康学部 管理栄養学科	31	①認可時に付された「沖縄の食文化論」及び「沖縄の食の機能性研究論」のシラバスに係る遵守事項について、各シラバスの講義概要及び達成目標を追記したことだが、同科目のシラバスが示されていないことから、その適否の確認ができない。「沖縄の食文化論」及び「沖縄の食の機能性研究論」のシラバスの提出すること。 ②認可時に付された「問題発見演習Ⅰ・Ⅱ」及び「専門演習a・b」のシラバスに15回に係る遵守事項について、各シラバスに15回の授業内容を記載したことから、その適否のシラバスが示されていないことから、その適否の確認ができない。「問題発見演習Ⅰ・Ⅱ」及び「専門演習a・b」のシラバスの提出すること。	①「沖縄の食文化論」及び「沖縄の食の機能性研究論」のシラバスを添付します。また、履行状況報告書の「6附帯事項等」に対する履行状況等」資料として面シラバスを追加します。 ②「問題発見演習Ⅰ・Ⅱ」及び「専門演習a・b」のシラバスを添付します。また、履行状況報告書「6附帯事項等」に対する履行状況等」の資料として面シラバスを追加します。	有

シラバス (授業計画)

講義科目名称： 沖縄の食文化論

英語科目名称： Okinawan food culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位	必修
担当教員 國仲小織 新垣慶子 新城澄枝			
担当形式 オムニバス			

講義概要	本県は、中国、日本、東南アジア等との交易を通して沖縄独特の食文化を育んできた。琉球料理は、約450年続いた琉球王朝時代に冊封使や薩摩の役人等のおもてなし料理として発展した宮廷料理と亜熱帯・島嶼の厳しい自然環境下で日々の暮らしの中から生まれた庶民料理の2つの源流がある。本講義では、沖縄の伝統的な食文化の定義、琉球料理の2つの源流である宮廷料理と庶民料理の時代ごとの特徴を学び、さらに時代の変遷より食文化がどのように変わっていったのかについても学ぶ。沖縄の生活に根付いている「医食同源」の思想や、他県とは大きく異なる年中行事等についても学習し、沖縄の食文化を深く理解することで伝統的な食文化に愛着と誇りをもち、それが地域共創に結びつくことを学修する。
授業計画	第1回 オリエンテーション 沖縄の食文化の概要 (担当 國仲小織) 第2回 沖縄の伝統的な食文化の定義 (担当 國仲小織) 第3回 食文化を構成する9つの要素 (担当 國仲小織) 第4回 琉球王朝時代の宮廷料理 (担当 國仲小織) 第5回 琉球王朝時代の庶民料理 (担当 國仲小織) 第6回 沖縄の食文化の時代背景 グスク時代～冊封時代 (担当 新垣慶子) 第7回 沖縄の食文化の時代背景 ～薩摩の統治時代 (担当 新垣慶子) 第8回 沖縄の食文化の時代背景 ～明治・大正・昭和 (担当 新垣慶子) 第9回 沖縄の食文化の時代背景 ～アメリカ統治時代 (担当 新垣慶子) 第10回 沖縄の食文化の時代背景 ～現代 (担当 新垣慶子) 第11回 思想背景 (医食同源) について (担当 新城澄枝) 第12回 思想背景 (以類補類) について (担当 新城澄枝) 第13回 人生儀礼・年中行事と食文化について (担当 新城澄枝) 第14回 沖縄の食文化の保存・普及・継承の取組 (担当 新城澄枝)

	第15回 まとめ (担当 新城澄枝) 第16回 試験
授業形態	オムニバス 講義形式
達成目標	1. 沖縄の伝統的な食文化の定義を理解できる。 2. 沖縄の食文化の時代背景について理解できる。 3. 沖縄の食文化の思想背景 (医食同源、以類補類) や人生儀礼・年中行事について理解できる。 4. 伝統的な食文化に愛着と誇りをもち、沖縄の食文化の保存・普及・継承の取組が地域共創に結びつくことを理解できる。 5. 沖縄の食文化とアジア地域との関連性を理解できる。
評価方法	各成績評価について、評価の割合 (全体を100%) を示す。 試験 40% レポート 40% 授業態度 20%
評価基準	各講義でのテーマ別レポートを提出し、期末テストと合わせて評価を行う。
教科書・参考書及び 事前事後学習について	授業テーマに応じた予習をして授業に臨むこと。また、授業後は学習内容の復習を行うこと。
履修条件	本授業に関連する科目を履修済みであること
履修上の注意	次回範囲の事前学習および授業後は学習内容の復習を行う
卒業認定・学位授与方針 と当該授業の関連	本講義は、ディプロマ・ポリシーの地域共創力 「沖縄地域の食と健康の関係を探求・応用し公衆衛生の向上に寄与する」 に関連した科目である。
課題に対する フィードバック	提出したレポートに対して次回講義冒頭においてそのつどフィードバックをおこなう。
オフィスアワー	各担当講師によるのでハンドブック掲載欄等を参考にすること。
備考・メッセージ	

シラバス (授業計画)

講義科目名称： 沖縄の食の機能性研究論

英語科目名称： Study of Okinawan functional food materials

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位	必修
担当教員 安田正昭 下地みさ子 宮良恵美 新城澄枝			
担当形式 オムニバス			

講義概要	沖縄県は、自然的、地理的、歴史的背景から、食素材や調理法、「以類補類」・「医食同源」の考え方を根底とした食の営み等、食文化において他都道府県とは大きく異なる特徴をもっている。先人の知恵が生かされた沖縄の伝統的な食の健康寄与への科学的根拠について理解を深め、伝統的発酵食品や沖縄特有の食素材においてアジア地域との関連性を学ぶ科目である。 食品分野においては、沖縄特有の食素材の生産、流通、機能性開発に関する教育研究、臨床栄養分野では、疾病の治療、増悪化防止に有効な成分を有するメニューとしての活用、高齢者福祉では、嗜好性の高い食事の提供・低栄養の予防等について、これまでの研究成果などの紹介と今後への課題等について講義する。
授業計画	第1回 オリエンテーション 食の機能性研究の概要 第2回 伝統的発酵食品の健康機能に関する研究の紹介と現状分析・課題及び今後の方向性について1 (担当 安田正昭) 第3回 伝統的発酵食品の健康機能に関する研究の紹介と現状分析・課題及び今後の方向性について2 (担当 安田正昭) 第4回 伝統的発酵食品の健康機能に関する研究の紹介と現状分析・課題及び今後の方向性について3 (担当 安田正昭) 第5回 伝統的発酵食品の健康機能に関する研究の紹介と現状分析・課題及び今後の方向性について4 (担当 安田正昭) 第6回 沖縄特有の食素材の生産、流通、健康機能に関する研究の紹介と現状分析・課題及び今後の方向性について1 (担当 下地みさ子) 第7回 沖縄特有の食素材の生産、流通、健康機能に関する研究の紹介と現状分析・課題及び今後の方向性について2 (担当 下地みさ子) 第8回 沖縄特有の食素材の生産、流通、健康機能に関する研究の紹介

	と現状分析・課題及び今後の方向性について3（担当 下地みさ子） 第9回 沖縄特有食素材の疾病治療・増悪化防止に有効な成分に関する研究の紹介と現状分析・課題及び今後の方向性について1（担当 宮良恵美） 第10回 沖縄特有食素材の疾病治療・増悪化防止に有効な成分に関する研究の紹介と現状分析・課題及び今後の方向性について2（担当 宮良恵美） 第11回 沖縄特有食素材の疾病治療・増悪化防止に有効な成分に関する研究の紹介と現状分析・課題及び今後の方向性について3（担当 宮良恵美） 第12回 健康機能に関する研究の紹介（担当 新城澄枝） 第13回 伝統食の学校給食への活用状況の分析、課題及び今後の取組（担当 新城澄枝） 第14回 伝統食の病院給食献立への活用状況の分析、課題及び今後の取組（担当 新城澄枝） 第15回 まとめ（担当 新城澄枝） 第16回 試験
授業形態	講義形式
達成目標	1. 先人の知恵が生かされた沖縄の伝統的な食の健康寄与への科学的根拠について理解できる。 2. 沖縄特有の食素材の生産、流通、機能性開発に関して理解できる。 3. 臨床栄養分野において、疾病の治療、増悪化防止に有効な成分を有するメニューとして沖縄の伝統的な食が活用されていることを理解できる。 4. 沖縄の食の機能性研究が地域共創に結びつくことを理解できる。 5. 沖縄の食の機能性研究とアジア地域との関連性を理解できる。
評価方法	各成績評価について、評価の割合（全体を100%）を示す。 試験 40% レポート 40% 授業態度 20%
評価基準	各講義でのテーマ別レポートを提出し、期末テストと合わせて評価を行う。
教科書・参考書及び 事前事後学習について	授業テーマに応じた予習をして授業に臨むこと。また、授業後は学習内容の復習を行うこと。
履修条件	
履修上の注意	次回範囲の教科書の事前学習し、授業後は学習内容の復習を行う
卒業認定・学位授与方針 と当該授業の関連	本講義は、ディプロマ・ポリシーの地域共創力 「沖縄地域の食と健康の関係を探求・応用し公衆衛生の向上に寄与する」

	に関連した科目である
課題に対する フィードバック	提出したレポートに対して次回講義冒頭においてそのつどフィードバックをおこなう。
オフィスアワー	各担当講師によるのでハンドブック掲載欄等を参考にすること。
備考・メッセージ	

シラバス (授業計画)

講義科目名称： 問題発見演習 I

英文科目名称： Discovery Seminar I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位	必修
担当教員 山代寛、安田正昭、新城正紀、新城澄枝、宮良恵美、新垣慶子、下地みさ子、 國仲小織、山川房江、我那覇ゆりか			

講義概要	問題発見演習は4年間の演習の最初であり、ゼミ活動への入門の場でもあります。 本学では1年次に問題発見演習Ⅰ・Ⅱ、2年次に基礎演習Ⅰ・Ⅱ、3年次～4年次では健康栄養学部では専門演習、栄養総合演習として設置されています。演習（ゼミナール、略してゼミともいう）とは、一方的に教員が話す講義とは全く質が異なります。「地域共創・未来共創の大学へ」を理念とする沖縄大学では少人数による演習を1年次～4年次まで開講し、他者と積極的に交流しながら、主体的に学ぶ学習を重視しています。
授業計画	第1回 オリエンテーション 自己紹介 入学前課題の確認 第2回 ノートのとり方 オキダイドリル復習 第3回 テキストの読み方①オキダイドリル復習 第4回 合同ゼミ 障害学生支援 アルコール タバコについて 第5回 新入生スポーツ大会 第6回 テキストの読み方② オキダイドリル復習 第7回 レポートの書き方① オキダイドリル復習 第8回 レポートの書き方② 第9回 資料の探し方 第10回 大学図書館の使い方 第11回 ゼミ発表の仕方 (ライフデザインに関するテーマ) ① 第12回 ゼミ発表の仕方 (ライフデザインに関するテーマ) ② 第13回 ゼミ発表 第14回 全体討論 第15回 全体のまとめと振り返りレポート提出
授業形態	20名程度の学生が発表したり、議論したりして主体的に学習します。
達成目標	問題発見演習では下記の3つの力（能力）の養成を中心に行われます。 1. ライフデザイン（大学在学中および大学卒業後の人生/生活を設計できる力） 2. ソーシャルスキル（他者と交流して活動できる能力） 3. スタディスキル（大学での主体的学習を可能とする学習技術） 問題発見演習Ⅰ（前期）では、ライフデザインとソーシャルスキルにやや比重を置い

	た取り組み（自己紹介、スポーツ大会、ライフデザインについてゼミ発表など）を行い、大学という場に適応することを目的とします。
評価方法	授業態度 20% 課題提出 60% 発表と発言 20%
評価基準	秀：100～90点 優：89点～80点 良：79点～70点 可：69点～60点 不可：59点以下
教科書・参考書及び 事前事後学習について	大学生学びのハンドブック「4訂版」 入学前課題に用いた e-learning 教材 オキダイドリルを6月まで使用します。
履修条件	特になし
履修上の注意	予習復習課題が多数であるのでその心構え
卒業認定・学位授与方針 と当該授業の関連	全学科、必修科目である。
課題に対する フィードバック	初回授業時に周知する。
オフィスアワー	各担当講師によるのでハンドブック掲載欄等を参考にすること。
備考・メッセージ	沖縄大学では、演習担当教員がみなさんのアドバイザーとなり、履修登録から、学習・生活相談など色々な相談にのります。みなさんが大学の授業や生活において疑問や困難が生じたりした場合は必ず演習担当の教員に相談してください。

シラバス (授業計画)

講義科目名称： 問題発見演習 II

英文科目名称： Discovery Seminar II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位	必修
担当教員 山代寛、安田正昭、新城正紀、新城澄枝、宮良恵美、新垣慶子、下地みさ子、 國仲小織、山川房江、我那覇ゆりか			

講義概要	問題発見演習は4年間の演習の最初であり、ゼミ活動への入門の場でもあります。 本学では1年次に問題発見演習Ⅰ・Ⅱ、2年次に基礎演習Ⅰ・Ⅱ、3年次～4年次では健康栄養学部では専門演習と栄養総合演習として設置されています。演習(ゼミナール、略してゼミともいう)とは、一方的に教員が話す講義とは全く質が異なります。「地域共創・未来共創の大学へ」を理念とする沖縄大学では少人数による演習を1年次～4年次まで開講し、他者と積極的に交流しながら、主体的に学ぶ学習を重視しています。問題発見演習Ⅱでは、入学当初の目標を再確認、あるいは、新たに目標を設定して、互いに支え合いながら達成を目指します。目標達成のための具体的な計画づくり、プレゼンテーション、中間報告レポート、ディスカッション、最終報告を行う。そのプロセスの中で、スタディ・スキルを養います。
授業計画	第1回 本授業の説明と課題の共有 第2回 問題関心の紹介と検討 第3回 文献紹介①—自分の関心の紹介 第4回 文献紹介②—資料の作成方法 第5回 文献購読①—発表の仕方・議論の仕方 第6回 文献購読②—準備された文献について 第7回 問題意識の整理 第8回 パワーポイントの使い方 第9回 パワーポイントでのプレゼンテーションのやり方 第10回 ゼミ発表のパワーポイント作成 第11回 ゼミ発表会① 第12回 ゼミ発表会② 第13回 発表を元に議論 第14回 全体討論 第15回 全体のまとめと振り返りレポート提出
授業形態	20名程度の学生が発表したり、議論したりして主体的に学習します。
達成目標	問題発見演習では下記の3つの力(能力)の養成を中心に行われます。

	1. ライフデザイン（大学在学中および大学卒業後の人生/生活を設計できる力） 2. ソーシャルスキル（他者と交流して活動できる能力） 3. スタディスキル（大学での主体的学習を可能とする学習技術） 問題発見演習Ⅱ（後期）では、各教員の専門分野でのスタディスキル養成に比重を置いた内容となります。
評価方法	(1) レポートの評価（30%） レポートの目的、扱う課題がきちんと述べられているか。その問題を扱うだけの重要性を持っているということが、説得力を持って述べられているか。形式は整っているか。 (2) 発表の評価（30%） 独自のアイディアや意見を盛り込んでいるか。論旨が簡潔に表現され、わかりやすいか。論旨が十分に説得力を持っているか。 (3) ゼミ活動への参加態度（40%） 話し合いに積極的に参加しているか。ゼミのメンバーに敬意を示し、グループワークがうまく進行するよう心掛けているか。など
評価基準	秀：100～90点 優：89点～80点 良：79点～70点 可：69点～60点 不可：59点以下
教科書・参考書及び 事前事後学習について	大学生学びのハンドブック「4訂版」 授業計画第6回の文献については専任教員が準備するが、資料は互いに推薦・紹介しましょう。 資料を事前に配布しますので、読了の上で授業に望むこと。発表がある場合はハンドアウトを用意し、事前に自分の意見を準備しておくこと。
履修条件	特になし
履修上の注意	予習復習課題が多数であるのでその心構え
卒業認定・学位授与方針 と当該授業の関連	全学科、必修科目である。
課題に対する フィードバック	授業の際に感想やコメントを集め、次回の授業でそれをフィードバックします。
オフィスアワー	各担当講師によるのでハンドブック掲載欄等を参考にすること。
備考・メッセージ	沖縄大学では、演習担当教員がみなさんのアドバイザーとなり、履修登録から、学習・生活相談など色々な相談にのります。みなさんが大学の授業や生活において疑問や困難が生じたりした場合は必ず演習担当の教員に相談してください。

シラバス (授業計画)

講義科目名称： _____ 専門演習 a

英文科目名称： _____ Advanced Seminar a

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位	必修
担当教員 山代寛、安田正昭、新城正紀、新城澄枝、宮良恵美、新垣慶子、下地みさ子、 國仲小織、山川房江、我那覇ゆりか			

講義概要	前期 専門演習 a では問題発見演習、基礎演習での学びを活かして、専門分野に関する問題発見・解決能力、そして専門分野と社会との関係について議論することで、ディスカッション能力等の社会への応用能力を育てる。管理栄養士としての実践的指導力を高めるために、学生の専門分野に応じた論文やレポートの作成、集団討論を実施する。主体的に考える力を養い、長寿社会沖縄の復活の担い手になるべく、生涯にわたり自らの専門性を向上させるための学修能力を身につける。
授業計画	第1回 オリエンテーション、「健康、栄養、食」をどう考えるか 第2回 健康に関する世界の現状と課題 第3回 地域の健康の現状と課題 第4回 地域の健康に関する課題解決のために (1) 資料や文献等の収集 第5回 地域の健康に関する課題解決のために (2) 資料や文献等の読解 第6回 健康と食に関する課題解決のために (1) 資料や文献等の要約とその方法 第7回 健康と食に関する課題解決のために (2) 資料や文献等のプレゼンテーションとその方法 第8回 健康と食をテーマとしたグループディスカッション 第9回 栄養と食に関する課題解決のために (1) 資料や文献等の要約とその方法 第10回 栄養と食に関する課題解決のために (2) 資料や文献等のプレゼンとその方法 第11回 栄養と食をテーマとしたグループディスカッション 第12回 「健康、栄養、食」に関する課題解決に向けた研究テーマの立案 (1) 個人ワーク 第13回 「健康、栄養、食」に関する課題解決に向けた研究テーマの立

	案 (2) グループワーク 第14回 「健康、栄養、食」に関する課題解決に向けた研究テーマのプレゼン (1) 第15回 「健康、栄養、食」に関する課題解決に向けた研究テーマのプレゼン(2)
授業形態	・本講義は、ディカッションやプレゼンテーション、グループワークなど、演習を中心に進めていく。
達成目標	・本講義では、以下3点を達成目標とする。 ①「健康・栄養の専門分野」に関する地域の課題を理解する。 ②「健康・栄養の専門分野」に関する課題解決に必要な情報を収集することができる。 ③「健康・栄養の専門分野」に関する課題解決に必要な情報を分析し、表現することができる。
評価方法	各成績評価について、評価の割合（全体を100%）を示す。 ①研究テーマと研究成果のプレゼンテーション（60%） ②レポートを作成し、提出する（40%）
評価基準	秀：100～90点 優：89点～80点 良：79点～70点 可：69点～60点 不可：59点以下
教科書・参考書及び 事前事後学習について	教科書・参考書 特になし 事前事後の学習について ・本講義は、前時の内容を踏まえて各回の講義が進められていくため、毎時間の復習を行うこと。 ・シラバスを参考にしながら、次時のテーマに関する予習を行うこと。
履修条件	基礎演習 I, II の履修を終えている事
履修上の注意	予習復習課題が多数であるのでその心構え
卒業認定・学位授与方針 と当該授業の関連	・本講義は、管理栄養学科の専攻専門演習科目であり、卒業必修科目となっている。 ・本講義は、本専攻の学位授与方針の「(3) 専門的知識・技能の活用力」と「(5) 地域共創力」とに関連する科目である。
課題に対する フィードバック	・研究テーマと研究成果のプレゼンテーションが十分でない学生に対しては、個別に指導する機会を設定する。 ・レポートは、事前に提出し内容等について全体への指導と個別への指導を行う。
オフィスアワー	各担当講師によるのでハンドブック掲載欄等を参考にすること。
備考・メッセージ	

シラバス (授業計画)

講義科目名称： 専門演習 b

英文科目名称： Advanced Seminar b

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位	必修
担当教員 山代寛、安田正昭、新城正紀、新城登枝、宮良恵美、新垣慶子、下地みさ子、 國仲小織、山川房江、我那覇ゆりか			

講義概要	専門演習 b では専門演習 a に引き続き、専門分野に関する問題発見・解決能力、そして専門分野と社会との関係について議論することで、ディスカッション能力等の社会への応用能力を育てる。管理栄養士としての実践的指導力を高めるために、学生の専門分野に応じた論文やレポートの作成、集団討論を実施する。科学的な分析力とともに、文献を読む力や論文を書く力、研究内容を発表するプレゼンテーション能力を身につけ、専門分野についての問題発見・解決能力、論理性・構想力等をさらに養い4年次の卒業研究に結びつける。
授業計画	第1回 「健康・栄養の専門分野」に関する分野の研究 (1) 質的研究とは 第2回 「健康・栄養の専門分野」に関する分野の研究 (2) インタビュー調査と質問紙調査 (記述式) 第3回 「健康・栄養の専門分野」に関する課題解決に向けた研究データの収集とその方法 第4回 「健康・栄養の専門分野」に関する分野の研究 (3) 質的データの分析方法 第5回 「健康・栄養の専門分野」に関する分野の研究 (4) 質的データ分析の実際 第6回 研究結果を論理的に表現する (1) 結果の提示、説明とその書き方 第7回 研究結果を論理的に表現する (2) 考察とその書き方 第8回 研究結果を論理的に表現する (3) グループ討議 第9回 研究結果を論理的に表現する (4) プレゼンテーションの準備 第10回 研究結果を論理的に表現する (5) プレゼンテーションの実際「 第11回 研究結果を論理的に表現する (6) プレゼンテーションの実際 第12回 「健康・栄養の専門分野」に関する分野の研究 (5) 量的研究とは 第13回 「健康・栄養の専門分野」に関する分野の研究 (6) 量的データの分析方法 第14回 「健康・栄養の専門分野」に関する分野の研究 (7) 量的データの分析の実際 第15回 習得した力を生かす：卒業論文の作成に向けて
授業形態	・本講義は、ディカッションやプレゼンテーション、グループワークなど、

	演習を中心に進めていく。
達成目標	・本講義では、以下3点を達成目標とする。 ①「健康・栄養の専門分野」に関する地域の課題を理解する。 ②「健康・栄養の専門分野」に関する課題解決に必要な情報を収集することができる。 ③「健康・栄養の専門分野」に関する課題解決に必要な情報を分析し、表現することができる。
評価方法	各成績評価について、評価の割合（全体を100%）を示す。 ①研究テーマと研究成果のプレゼンテーション（60%） ②レポートを作成し、提出する（40%）
評価基準	秀：100～90点 優：89点～80点 良：79点～70点 可：69点～60点 不可：59点以下
教科書・参考書及び 事前事後学習について	教科書・参考書 特になし 事前事後の学習について ・本講義は、前時の内容を踏まえて各回の講義が進められていくため、毎時間の復習を行うこと。 ・シラバスを参考にしながら、次時のテーマに関する予習を行うこと。
履修条件	基礎演習 I, II の履修を終えている事
履修上の注意	予習復習課題が多数であるのでその心構え
卒業認定・学位授与方針 と当該授業の関連	・本講義は、管理栄養学科の専攻専門演習科目であり、卒業必修科目となっている。 ・本講義は、本専攻の学位授与方針の「(3) 専門的知識・技能の活用力」と「(5) 地域共創力」とに関連する科目である。
課題に対する フィードバック	・研究テーマと研究成果のプレゼンテーションが十分でない学生に対しては、個別に指導する機会を設定する。 ・レポートは、事前に提出してもらい内容等について全体への指導と個別への指導を行う。
オフィスアワー	各担当講師によるのでハンドブック掲載欄等を参考にすること。
備考・メッセージ	

7 その他全般的事項

<健康栄養学部 管理栄養学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
①別記様式第2号（その3の1）授業科目の概要 a 栄養管理学概論 b 栄養教育総論 c 臨床栄養学各論Ⅰ d 臨床栄養学実習Ⅰ e 臨床栄養学各論Ⅱ f 栄養総合演習Ⅱ	①左記6科目について、厚生局の指導により「講義等の内容」の修正を行った（a, bは名称変更も伴う）。 6科目の担当予定教員については本年6月のAC教員審査を受審の予定である。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

2010年6月に沖縄大学ファカルティ・デベロップメント委員会を設置。 ※委員会規程を添付

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

委員会は教務部長を委員長に各学科選出の委員、教務課職員及び委員会が特に必要としたものから構成される。委員会はその時々トピック等必要に応じて開催される（不定期開催。2018年度は3回。）

c 委員会の審議事項等

教員の教育能力の開発・向上に係る情報収集と学内への提供。教員の教育能力の開発・向上に係る活動の企画立案及びその活動の評価。学科ごとのFD計画について。その他FD活動に関すること。

② 実施状況（平成30年度）

a 実施内容

- ・ 授業改善アンケートの分析とそれに基づく授業方法の改善
- ・ 成績評価の厳格化
- ・ 学外研修会への教員派遣とその報告会
- ・ 中長期計画の策定、自己点検・評価報告書の作成の為に勉強会
- ・ 教員相互の授業参観
- ・ 新任教員のためのオリエンテーション等
- ・ 中退対策研究への助成とその報告会
- ・ 教職合同研修会

b 実施方法

- ・ FD委員会、大学執行部、あるいは経営企画室や研修担当部署の総務課などがFD、SD研修の企画・立案を行い、各種講演会、研修会、勉強会を実施している。
- ・ 教員に特化した内容については毎月第4水曜日に開催される全学教員会議に合わせて実施する等、なるべく多くの教員が参加できる時間帯を活用している。中退問題や自己点検・評価など教職員全体に関わる内容の場合は夏季休暇期間中等を活用している。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 4月2日 新任教員オリエンテーション
- ・ 4月25日 「大学教育学会に参加して」報告会（全学教員会議：50名参加）
- ・ 8月7日 内部質保証についての勉強会（大学基準協会から講師招聘：参加者16名中、教員11名参加）

- ・ 9月10日 拡張現実 (AR)・複合現実 (MR)・仮想現実 (VR)を知る勉強会・体験会：参加者7名中、教員6名参加)
- ・ 9月26日 禁煙禁酒教育における学生生活支援について報告(全学教員会議：41名参加)
- ・ 10月31日 退学問題の数的実態把握について
- ・ 11月15日 ルーブリックを活用した学びの評価(於：沖国大。本学参加者10名中、教員3名)
- ・ 11月13日 「九州産業大学における中退予防の実践事例」(参加者45名中教員17名)
- ・ 11月28日 沖縄大学の中退退学者問題に係る報告(全学教員会議：41名参加)

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 授業改善アンケートのコメント欄に記載された教員への指摘・要望については、当該教員からの回答を記載し、出来る限り授業の改善に結びつくようにしている。
- ・ 5次中計の中に入れ年次計画的に取り組んでいくことになった。
- ・ 中退問題委員会を立ち上げ、全学的に取り組んでいくことになった。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

学生に対する「授業改善アンケート」を年2回(前期・後期の学期末)実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

学生、教職員へは各期ごとの集計結果の概要を大学ホームページで公開している。各科目担当者は当該科目の集計結果を閲覧し、学生からの指摘・要望等のコメントがあれば、それに対する回答を作成しHPで公開している。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項 「該当なし」

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況(各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む)

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

健康栄養学部管理栄養学科は、「地域共創、未来共創の大学へ」という本学の建学の理念を根底に据えて、栄養、健康及び食品についての専門的な学芸を教授・研究し、地域社会の中で自ら問題を発見し、その解決策を見つけ、地域社会に貢献しうる人材の育成を目的としている。学部学科の教育目標を効果的に達成するために、管理栄養士学校指定規則に従った教育内容を基本としたうえで、沖縄の食文化論、沖縄の食の機能性研究論等の特色ある科目も学んでいく。平成30年度の学生募集活動では、オープンキャンパスや進路相談会、高校訪問等を実施した結果、80人の定員に対し266人の志願が志願し、本年4月の入学者は81人となった。県内初の管理栄養士養成施設として一定の評価を得たものと考えている。

本年5月1日現在の管理栄養学科教員10名中9名が新規採用である。本学のミッション、本学科の三つのポリシー等について更に理解を深めながら教育・研究に取り組んでいく。また、学年進行に応じて、設置計画に基づく教育過程の運営を着実に実施していく。また、次年度以降も大学案内や大学ホームページ、オープンキャンパス等を通して、本学科の魅力を高校生、高校教員に伝え、本学科の教育目標に共感する学生の入学を目指していく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和3年5月1日

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和3年5月1日を予定）

③ 認証評価を受ける計画

・令和2年度に評価機関（公益財団法人 大学基準協会）の評価受審予定。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年 9月 1日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。